

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

8

No.403



温故知新 ～一途に社協道～



大火勢

福谷大火勢保存会 会長 白谷 正廣さん（おおい町）



写真撮影：須川 建美氏

大火勢の祭りは、京都嵯峨愛宕山に鎮座する愛宕神社を源としています。この神社は、古くは戦勝祈願の地となっていました。近代以降は火伏せの神（鎮火神）としての信仰も篤い神社です。

ここ福谷の大火勢は、江戸初期から始められたといわれており、区長や大火勢保存会の人々により今日まで受け継がれている火祭りです。この祭りは、愛宕信仰に基づく火災鎮護の祭りで、毎年、愛宕講の代表者3名が京都の愛宕神社まで火をもらいに行きます。その火で提灯や松明そして、火勢に火をつけます。

祭りの当日は午前中に、長さ14mくらいのヒノキの棹に横木を5段輪状に束ね、アシやススキを乾燥しておいたものを、棹の先端と5段の横木に結んで作った火勢を山上に用意します。そして、午後8時頃、地蔵前に集まり、高張提灯を先頭に、笛、

かねや大太鼓ではやしながら、各自松明をかざして、火勢山へ登っていきます。

大火勢に点火し、数人が又のついた突っかえ棒で支え起こし、同時に1本のロープを引いて直立させ、火勢棹を回転させていきます。

暗い山の頂に大火勢がパチパチ音を立てて燃え上がる様は、あたかも仏像の光背か、炎を吹き出して仁王立ちする仁王様または炎の中でじっと耐える阿弥陀様のようにも見えます。この間、笛、かねや太鼓は鳴りやむことはありません。乱舞する大火勢の勇壮・豪快・荘厳さには、思わず嘆声をあげてしまうほどです。

やがて燃え尽きると、高張提灯を掲げ、ふもとに出迎えている人たちとともに、伊射奈伎神社に奉納し、翌日は熊野神社へ奉納します。

福谷区の大火勢は、昭和57年4月に福井県指定無形文化財の指定を受け、現在に至っています。かつては愛宕信仰に関わる火勢は福谷区以外にも行われていましたが、とにかく大火勢には人数が必要になります。今では地域の高齢化も進みこの火祭りも存続の危機にさらされています。今後この危機をどう乗り越えるかが地域の課題となっていますが、戦時中も欠かさずに行われてきた火祭りを絶やすことなく続けていきたいと願っています。

温故知新

1年を通して行われる祭りには「祈りや感謝そして願い」といった人の願いがこめられています、だからこそ代々受け継がれてきた祭りを大切に守り、次世代へと繋いでいます。

そのことを踏まえ、地域と密接な関わりがある祭りに焦点をあて、福井県内の祭りをシリーズで掲載していきます。



この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

推進運動は今年で5周年！

～県民をつなぐ「おかげさま」と「お互いさま」の輪～



運動5周年記念オリジナルポロシャツをあっ旋販売します！

福井県社会福祉協議会に設置されている福井県ボランティアセンターでは、「つなぐボランティアの輪」推進運動5周年を記念し、オリジナルポロシャツをあっ旋販売します。

ポロシャツの売り上げは、まだ復興半ばの東日本大震災の被災地支援、県内の地域福祉やボランティア活動支援として活用します。

この機会に、ご購入いただき、ボランティア活動などさまざまな場面でご着用ください！福井県社会福祉協議会では、7月～11月の推進運動期間中、イベントや勤務時に職員が着用しています。

購入を希望される場合は、当センターあて8月29日（金）までにご注文くださいますようお願いいたします。

注文受付期間 8月29日（金）まで

カラー 紺色

サイズ S、S、M、L、2L、3L（男女兼用です）

販売価格 1着 1,500円（税込）

※有料頒布したポロシャツの売り上げは、被災地支援や県内の地域福祉・ボランティア活動支援として活用します。

※お支払いは、ポロシャツの受け渡し時に現金でお願いします。

※振込みでのお支払いも可能です。この場合、振込手数料108円をご負担いただきます。

問合せ先 福井県ボランティアセンター
TEL: 0776-24-4987
FAX: 0776-24-0041
E-mail: volunt@f-shakyo.or.jp



前側



後側



つながりの証「つながリング」

「つなぐボランティアの輪」推進運動の各プログラムに参加いただいた皆さんには、つながりの証として「つながリング」をお配りしています。



前面左胸にスローガン、背中に「つなぐ！ボランティアの輪 Let's unite as one」の文字をプリントします。

サマーボランティア体験にご参加ください

福祉施設でのお手伝いや環境保護活動など、176の活動メニューの中から興味・関心のあるボランティア活動を選んで体験することができます。この夏、新しいことにチャレンジしてみませんか？

期 間 7月21日（月・祝）～9月30日（火）

対象者 小学生高学年以上でボランティア活動に関心のある方
※小学生は原則、保護者同伴とします。

申込先 お住まいの市町社会福祉協議会ボランティアセンターまたは県社会福祉協議会ボランティアセンターまで



「つなぐれボランティアの輪」

「つなぐれ 80 万人のボランティアの輪」

ボランティア作文コンクールにご応募ください

広く県民から、ボランティアに関する作文を募集しています。優秀な作品は、11 月 8 日（土）に開催される「第 61 回福井県社会福祉大会」で表彰します。

応募締切

9 月 12 日（金）必着

応募部門

小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部

作文のテーマ

- ① ボランティア活動の経験から得たこと・感じたこと
- ② ボランティアについての自分の思い・考えていること



つなぐれボランティアの輪推進運動キャラバンを実施します！

運動 5 周年を記念して、「ボランティア月間」中の 9 月 26 日、29 日、30 日の 3 日間で、県内 17 市町社会福祉協議会を巡り、ボランティア活動の広がりを盛り上げていきます。皆さまも、最寄りの市町社会福祉協議会にお越しいただき、ぜひセレモニー（メッセージ交換、櫛の伝達式等）にご参加ください！

詳細については、福井県社会福祉協議会にお問い合わせください。

実施エリア

9 月 26 日（金） 福井・坂井・奥越エリア
9 月 29 日（月） 丹南エリア
9 月 30 日（火） 嶺南エリア

問合せ先

福井県ボランティアセンター TEL: 0776-24-4987

出発式（26 日）にはボクシング元世界チャンプの清水智信さんも登場いただきます！！



「つなぐれボランティアの輪」
推進運動キャラバン
Let's unite as one!

「ふくい健康長寿祭 2014」

開催日時 9 月 20 日（土）9:30～16:00

会場 ふくい健康の森 生きがい交流センター、県民健康センターほか

入場
無料

ステージ
イベント

○講演会

「生涯現役！目からうろこの生活改善法 ～運動と食事の実践～」

京都大学大学院 人間・環境学研究科教授 森谷 敏夫氏



参加者
募集

○健康コーナー

高齢者向けの身体を使った健康講習会（機能回復訓練）	先着 50 名
初心者向けの体験ヨガ講座	先着 50 名
特定健診・後期高齢者健診	対象 40 歳以上 先着 100 名
骨密度測定	対象 40 歳以上 先着 50 名

○こどもふれあいコーナー

タイルクラフト、ちぎり絵、和紙工芸、押し花、グラスペイント体験
（材料費実費相当分をご負担いただきます。）



プレゼント

- 生きがい交流センターでは、先着 400 名に飲食コーナー等割引券（300 円分）
- 先着 1,000 名に粗品

問い合わせ先：すこやか長寿課 TEL 0776-24-2433

福井豪雨から10年

災害時における支援活動を再確認 ～災害時における社協相互支援実地訓練～

(被災地役・福井市社会福祉協議会)

近年、日本では東日本大震災をはじめとする地震や集中豪雨など、さまざまな大災害が発生しています。

過去には本県においても、平成16年7月に「福井豪雨災害」が発生し、10年が経過しました。

災害時、社会福祉協議会では、被災地におけるボランティア活動支援や被災された住民の生活支援活動を展開していますが、災害時において福井県内の社会福祉協議会の連携をより強化するため、「災害時における社協ネットワークによる相互支援協定」を平成18年8月に締結しました。

そして、この協定に基づき迅速で効果的な実践が展開できるよう、災害時を想定した訓練を実施しています。

今年度は県内を3ブロックに分け、6月22日(福井市総合防災訓練日)に福井市が被災地役となり訓練を実施いたしました。

今回の訓練会場は、和田会場(福井市防災センター)と春山会場(福井市社協事務所)の2会場とし、福井市社協からの応援職員派遣要請に基

づいて、近隣社協(大野市・勝山市・あわら市・坂井市・永平寺町)から応援職員を派遣して訓練を行いました。各会場での訓練概要は次のとおりです。

和田会場(福井市防災センター)

和田会場では、近隣の地域住民も参加し、避難所運営や救護等の総合的な訓練が行われました。

応援職員は、福井市災害ボランティアセンター連絡会が中心となって運営している災害ボランティアセンターの設置・運営訓練に参加しました。

応援職員からは、センターの各セクションを体験したことで流れをつかみいろいろな発見や気づきがあった一方で、最低限の流れを把握していないと実際の運営は難しいとの感想もありました。



春山会場(福井市社協事務所)

春山会場では、福井市社協の「災害対応ガイドライン」に基づき、職員参集、被害状況の確認など初動対応訓練などが行われました。

応援職員は、福井市社協が実施している各事業(日常生活自立支援事業、障害者利用者相談支援事業等)の利用者の安否確認や各事業に関する情報集約などの訓練に参加しました。

応援職員は、自分の地域でも実際に支援が必要な利用者等のリストを作成し、災害時に速やかに対応できる体制の整備の必要性や日ごろから地域拠点(サロンなど)を意識して行動することの重要性を認識しました。

訓練を終えて

今回の訓練は、これまでの災害ボランティアセンターの設置・運営訓練に加え、社協の業務を迅速に復旧するための初動対応訓練を行ったことで、応援職員も自身の社協での災害支援活動を見直す機会となりました。

被災地役(福井市社協)から

これまでの訓練は社協間での訓練でしたが、他の組織や関係者、地域住民も参画した訓練ということもあり、より実践的な訓練になったのではないかと考えています。

災害規模にもよりますが、実際の発災時には人手不足になることから、社協活動全体をいかに支援していくかを念頭に置くが必要だと感じています。

(福井市社協 三ツ屋建治事務局長)



すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして



いま、保育・子育て支援を取り巻く状況は大きな転換期を迎えようとしています。「子ども・子育て関連三法」が成立し、平成二十七年からの施行に向けて「子ども・子育て支援新制度」の具体的な運用に関する保育の必要性の認定、新・幼保連携型認定こども園の基本的指針や認可・運営基準、支給認定（保育の必要性の認定）基準、公定価格などについて、内閣府の「子ども・子育て会議」において進められています。

このような保育制度の大きな転換期にあつて、本年六月八日（日）、福井県、福井県社会福祉協議会、越前市の主催により、越前市において「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」をテーマに、「第五十五回福井県保育研究大会」を開催しました。

保育所の役割とは

分科会では、約七百名の参加者が「新たな時代の保育実践」すべての子どもにむ

けて「はじめとする八つのテーマに分かれ、意見発表者の発表をもとに熱心な討議を行いました。」



分科会における熱心な討議

保育所は地域における子育て支援の拠点

桜花学園大学の小嶋玲子教授は、「地域における子育て支援の充実に向けて」と題する講演の中で、地域

助言者からは「保育に対して喜びや意欲を持つて取り組み、保育士間の信頼関係を築きながら、組織性を高めていくことが資質向上に繋がっている。」「地域における福祉の展開として、有効な関係機関を掘り起こし連携していくことが大切。」などのアドバイスがありました。

住民がそれぞれ支え合い子育て支援に関与するための保育士の役割の重要性や、そのための専門性の向上等を強調されました。



桜花学園大学 小嶋教授による記念講演

保育・子育て支援における今後の課題とは

現在、各保育所には、次年度からの新制度への円滑な移行に細心の注意を払い、一方で移行後もこれまで長年に亘りよりよいものへと進化してきた保育、子育て支援を継続していくことが大切となります。そのためには、保育従事者全てが資質向上に向けて絶え間なく研究していかねばなりません。

大会の最後には左記の大会宣言が承認され、参加者全員が当日の学びを今後の実践に活かすことを共有しました。

大会宣言

本日、第五十五回福井県保育研究大会が、子どもたちの笑顔が輝くまち、越前市にて開催され、「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」というテーマのもと、県内の保育関係者が一堂に会し、保育の質を高めるため、真剣に研究協議を行いました。

平成二十七年四月からの「子ども・子育て支援新制度」の施行に向け、国においては保育認定事業者の確保・認可等に関する基準の制定や公定価格の設定など制度の根幹をなす様々なことについて、急ピッチに作業が進められています。市町においては、これら基準や条例などに基づく具体的な施行に向けた手続きが進められ、保育所には今後極めて短期間に新制度への移行に関する様々な情報を正確に把握し、適切な判断に基づく円滑な対応が求められます。

この新制度への移行は今後「幼保連携型認定こども園」「保育所」のいずれにより事業を継続するかなど、これまで共通の指針を掲げて取り組んできた保育所にとって、経験したことのない大きな岐路でもあります。

いずれの形態であれ、私たち保育に携わる者には、未来に向かい、無限に伸びる可能性を秘めた、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えるとともに、保護者と保育者が協力し合い、豊かな子育て文化を根付かせる創意工夫に満ちた取組みが期待されています。

私たちは、この大会を契機に、次のことを常に念頭に置き、自己研鑽に努め、実践にあたることをここに宣言します。

- 一 私たちは、子どもの最善の利益の保障はもとより、家庭や地域と連携し、保育所の利用の如何を問わず、保護者に対する子育て支援に努めます。
- 一 私たちは、専門職として常に保育の質の向上を目指すとともに、その取組を広く保護者や地域に伝えるよう努めます。
- 一 私たちは、保育を通して子育ての楽しさ・食べる楽しさ・子どもの成長の喜びなどを共有しながら、親も子どもも育つ環境づくりに努めます。
- 一 私たちは、子どもの尊い命を守ることはもとより、心身ともに健やかな成長を支える上で必要な保育について、子どものみならず私たち自身も育ち合う仲間として職場内外を問わず積極的に議論し、提案します。

平成二十六年六月八日

第五十五回福井県保育研究大会

平成26年度(24回)福井県まごころ基金助成事業助成団体が決定

「福井県まごころ基金助成事業」は、県内の地域福祉の推進を図ることを目的に、民間の福祉団体等が実施する様々な社会福祉事業・活動に対して助成を通じた支援を行うもので、平成3年の創設以来、延べ842団体に対して、合計1億5千2百万円を超える助成を行っています。

今年度は、申請のあった39団体のうち、31団体合計5,510,000円の助成を決定しました。6月27日(金)、県社会福祉センターにおいて開催した「交付式」では、各助成団体の代表者などが集まり、県社協の伊藤靖朗副会長から交付決定通知が手渡されました。

また、助成を受ける各団体を代表し「NPO法人 心の健康相談室こだちのもり」の代表者が「より多くの人に届く活動ができるよう頑張りたい。」と謝辞を述べられました。

助成決定団体は、下記のとおりです。本助成金が有効に活用され、地域福祉の推進につながることが期待されます。



伊藤県社協副会長あいさつ



決定通知を受け取る団体代表者

区 分	申込団体名	事業名
(1)高齢者福祉の推進を目的とする事業	笑顔の宅配便 フルーツポンチ	高齢者等慰問事業
	福井県老人福祉施設協議会	科学的介護実践講座 介護力向上講習会開催事業
	福井市老人クラブ連合会	スポーツ大会を通じたスティックリングの普及
(2)障がい者福祉の推進を目的とする事業	福井県嶺北親の会	卒業生職場激励および現況調査実施事業
	NPO法人 心の健康相談室こだちのもり	心の問題に関する理解の普及・啓蒙事業
	日本網膜色素変性症協会福井県支部	支部設立10周年記念事業(前夜祭・記念式典・医療講演会)
	一般社団法人 福井県身体障害者福祉連合会	福井県障害者スポーツイベント「パラリンピックアスリートから学ぼう！」
	一般社団法人 精神障がい者ピア相談室	精神障がい者社会参加事業
	公益社団法人 日本リウマチ友の会福井支部	療養医療講演会開催事業
	NPO法人 グリーンウェル	竹細工体験教室事業
	福井県社会就労センター協議会	セルフ受注拡大のための学習会開催事業
	福井市身体障害者福祉連合会	創立60周年記念福祉大会記念事業「チャリティバザー」開催
	すくすく会(ダウン症児親の会)	ダウン症理解啓発のためのリーフレット作成および親子合宿
	NPO法人小さな種・こころ	「えきライブラリーカフェ(仮称)」における障がい者就労支援事業
	UNITIVE291(ゆにていぶ ふくい)	「見て！触れて！楽しもう！ユニバーサルスポーツ交流会」開催事業
	NPO法人 福井県手をつなぐ育成会	「育成会流・エンジョイライフのすすめ！」講演会およびシンポジウム開催事業
	NPO法人 和が家	「障がいのある方を地域で支えるために」講演会開催事業
	社会福祉法人 手をつなぐ福祉会あくてい	音楽療法活動の充実に関する整備事業
(3)児童福祉の推進を目的とする事業	社会福祉法人 西田福祉会 梅の里保育園	「梅の里ふれあいまつり」開催事業
	青少年育成福井市民会議創立30周年記念実行委員会	創立30周年記念講演事業
(4)「地域住民のつながり」や「福祉のまちづくり」の推進を目的とする事業	福井ARC(アーク)を支援する会	「アディクションを理解しその回復と社会復帰を支援する市民の集い」開催事業
	福井キャラバンメイト	「北陸RUN伴2014」広報事業
	株式会社 スタンドトゥギャザー	ものづくり体験教室開催事業
	NPO法人 福祉ネットこうえん会	「渚の交番」竣工記念オープンセレモニー事業
	NPO法人 おひさま	バリアフリーお出かけマップ作成事業
	越前市京町一丁目	「認知症の正しい知識」勉強会開催事業
	はあもにい 永平寺に障がいのある人の施設をつくる会	はあもにい 講演会開催事業
	NPO法人 森のほうかごがっこう	「森と山羊カフェ」開催事業
	自立生活センター Com-Support-Project	バリアフリーチェック調査実施事業(投票所、レジャー、公共施設)
(5)芸術・文化を通じた福祉活動の推進を目的とする事業	カルチャークラブ「友飛の翼」(ゆうひのつばさ)	「翼フェスティバル」開催事業
	社会福祉法人ハスの実の家	「ハスの実ワークショップ」開催事業

本番前のかためし!

平成26年度 介護支援専門員 模擬テスト

9/7
(日)

日時 平成26年9月7日(日) 受付9:30～

会場 福井県中小企業産業大学校「大教室」

10:00～12:00	模擬テスト
12:40～14:40	答え合わせと解説

受講対象者

「介護支援専門員実務研修受講試験」の受験資格を有する方

受講料

5,000円
(自宅受験は3,000円)

申込締切

8月22日(木)

※ 詳細についてはホームページをご確認ください。



パワーポイントスキル研修【実践編】 ～ 職場内研修指導者養成研修 ～

プレゼンテーションソフト(パワーポイント)の基礎的知識を習得している方が対象。画像の加工や映像の挿入・編集について学べます。

日時 平成26年8月27日(水)
9:50～17:00(受付9:30～)

会場 株式会社 システム研究所
福井市御幸2-17-25

受講料 10,000円/人(テキスト代2,160円含む)

福祉レクリエーション研修 ～ 利用者主体のレクリエーションを目指して ～

老人・障害福祉施設職員対象。体験型でレクリエーションを学びます。

日時 平成26年9月2日(火)
9:50～16:00(受付9:30～)

会場 サンドーム福井2階「小ホール」
越前市瓜生町5-1-1

受講料 5,000円/人

ホームページで申込用紙をダウンロードできます。

福井県社会福祉研修所

検索

click!!

福井県社会福祉協議会(福祉の人づくり支援課) TEL:0776-21-2294・FAX:0776-24-4187・E-mail:manp@f-shakyo.or.jp

「チャレンジ塾」を活用しませんか?

「チャレンジ塾」は、趣味を通して生きがいづくり・仲間づくりをしている元気な中高年のグループです。あなたの町へボランティアで出かけていき、楽しい演出でイベントやレクリエーションを盛り上げます。詳しくは福井県社会福祉協議会 すこやか長寿課(TEL:0776-24-2433)までお問い合わせください。(活動時間は30分が目安ですが、ご要望に応じますのでご相談ください。)

絵本読み聞かせ

「チャレンジ福井絵本くらぶ塾」
赤ちゃんからお年寄りまで絵本の
魅力を伝えます!



読み聞かせ絵本:「あんもちみつ」「モチモチの木」「じゅげむ」など

絵本の世界を楽しんでもらえるよう、メンバー同士で読み聞かせの勉強をしています。私たちが来るのを待っていてくれる人がいて、こちらもお出かけていくことが楽しくてしょうがないんです。(太田塾長)

オカリナ演奏

「チャレンジオカリナ塾」
塾活動で培った腕前を披露します!



演奏曲:「上を向いて歩こう」「故郷」「埴生の宿」「われは海の子」など

日ごろの練習の成果を聞いてもらいたいからと始めた地域活動は、たくさんの方に聞いてもらうことができ、とても嬉しく意欲がわいてきます。(笹川塾長)

アンサンブル&合唱

「チャレンジ音楽塾」
皆さんの拍手が生きがいです!



アンサンブル&合唱曲:「花」「子どもの世界」「ビリーブ」「四季の歌」など

平均年齢70才のグループですが、歌声はフレッシュなんです。楽器の演奏はピアノ・フルート・ハーモニカです。会場からいただく拍手に毎回感動しています。(村田塾長)

未来に笑顔



Profile

山田 達也 さん（福井市）

社会福祉法人 新清会 あさむつデイサービスセンター
生活相談員 7年

このコーナーでは、「笑顔（スマイル）」をキーワードに福祉職の方々に登場いただき、福祉の現場で活躍しているからこそ『見える』『言える』、福祉の魅力について語っていただきます。

福祉職に就いたきっかけ

小学校高学年からいじめにより不登校になり、高校まで辛い学校生活を送りました。いじめの原因を振り返ると「真面目すぎた」からだと思います。いじめられていることを親にも言えない状態が続き体調を崩してしまふこともありました。自分では、なぜきちんとするといじめられるのか理解はできませんでしたが、とりあえず目をつけられないように目立つことをしないようにと悩み続ける毎日でした。

しかし、この経験を踏まえて自分と同じ悩みや悲しみを味わってほしくないと思い、全ての人が暮らしやすい生活を過ごすためにどうしたらよいかを学ぶために福祉系の大学に進学しました。

プロ意識を自覚

利用者個人の想いを大切にしたいと思っています。もちろん意思表示をできる方ばかりではないので、洞察力を研ぎ澄ますことも重要なことです。そして、問題意識を持つということです。自分自身の頭の中に「疑問」を持ち続けておくことで疑問を解消していく過程が自らの日常業務行動を変えていく「学び」に直結しています。

プロだからという言葉はあまり好きではありませんが、諦めそうになる自分を叱咤し奮い立たせてくれます。そして、その言葉に何度も助けられました。

笑ってしまったこと



カラオケ大会で司会をしていた自分も歌うことになり、とても気持ちよく歌いきったのですが、利用者さんから「ねじ、巻き直してあげようか」と言われました。その意味がわかりませんでした。どうも聞くに堪えない歌だったようです。自分で楽しむ分には音痴だからといって誰に迷惑をかけるわけでもありませんが、この時ばかりは迷惑をかけたようです。

今後の目標

知識や技術においてはまだまだ未熟ですが、今の自分にできることはまっすぐに相手に向かうことだと思っています。この信条を持ち続けることで施設が地域を変えたいというひとつの夢を実現したいと思っています。

福祉の仕事は辛いとか汚いということとは側面でしかなく、ものすごく奥が深い仕事です。自分の心意気ひとつで深くも浅くもなります。

福祉は夢がいっぱい溢れているものだということをたくさんの人に伝えていきたいと思っています。

笑顔の素

利用者さんが笑ってくれることはもちろんですが、自分が行動を起こすことによって利用者さん本人の意思で行動され、それが習慣となった時にはとてもうれいします。

上司からの「コメント」

誰に対しても常に誠意ある態度で対応している姿は素晴らしいと感じています。また、知識も豊富で頼りになる存在です。

今後は、組織のリーダーとして他の職員を牽引する存在になってほしいと思っています。

取材を終えて

常に一生懸命で情に厚く、誠実な人柄がお顔から滲みでてきます。取材中も利用者さんの話を思い出すだけでその時の想いがこみ上げてきて涙ぐまれました。とても純粋な心を持ち合わせている方だと感じました。

福祉職になったきっかけは自身のいじめの体験をからいろいろなことを学び、他の人には自分と同じ思いをしてほしくないという思いからだ聞き、とても感動しました。

利用者さんのことを第一に考え、常に疑問を持ち続ける姿勢が印象的でした。